

ホクコー Dr. オリゼプリンススピノ粒剤 10

■種類名：スピノサド・フィプロニル・プロベナゾール粒剤	
■有効成分：スピノサド	0.75%
フィプロニル	1.0%
プロベナゾール	24.0%
■PRTR法指定物質：フィプロニル [第1種]	1.0%

■登録番号：第23597号
■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
■登録初年：2014.12.03
■性状：類白色細粒
■有効年限：3年
■包装：1kg×12袋、10kg×2袋

【特長】

- 病害抵抗性を誘導するプロベナゾールに、フィプロニルとスピノサドを組み合わせた殺虫殺菌剤。
- 異なる殺虫メカニズムのフィプロニルとスピノサドを組み合わせたことにより、フタオビコヤガをはじめとしたチョウ目害虫やイネドロオイムシに対する優れた効果を示す。
- スピノサドは天然物由来の成分であり、多くの「特別栽培米」で化学合成農薬の使用回数にカウントしない有効成分として認められている。(一部の地方自治体によって使用基準が異なる場合があるので、使用前に関係機関に確認すること)

【適用内容】(2017年4月12日現在)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	スピノサドを含む農薬の総使用回数	フィプロニルを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 イネドロオイムシ イネミズゾウムシ ニカメイチュウ コブノメイガ ウンカ類 イナゴ類	育苗箱 (30x60x3cm、 使用土壌約5%) 1箱当り 50g	移植3日前 ~移植当日	1回	育苗箱の 苗の上から均一に 散布する。	1回	1回	2回以内 (移植時 までの処理は1回 以内)
	フタオビコヤガ		緑化期 ~移植当日					

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきることを。
- 育苗箱の苗の上から所定量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植すること。
- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などでは薬害を生ずるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
- 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生ずる場合もあるので、散布直前の灌水は避けること。
- 処理苗を移植する本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出しないよう注意すること。
- 処理苗を本田に移植した後は、そのまま湛水状態(湛水深3~5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
- 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田での使用は避けること。
- 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合には使用を避けること。
- 本剤は処理を誤ると、生育初期の葉の黄化や生育遅延などの薬害を生ずるので、所定の使用時期、使用方法を守ること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤食などのないよう注意すること。
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- ❖ フィプロニルによる中毒に対しては、動物実験でフェノバルビタール製剤の投与が有効であると報告されている。
- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ❖ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触を避けること。
- ❖ 夏期高温時の使用を避けること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
移植後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- ❖ 保管：直射日光を避け、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。